

2023年度 学修調査（大学院）の調査結果の概要

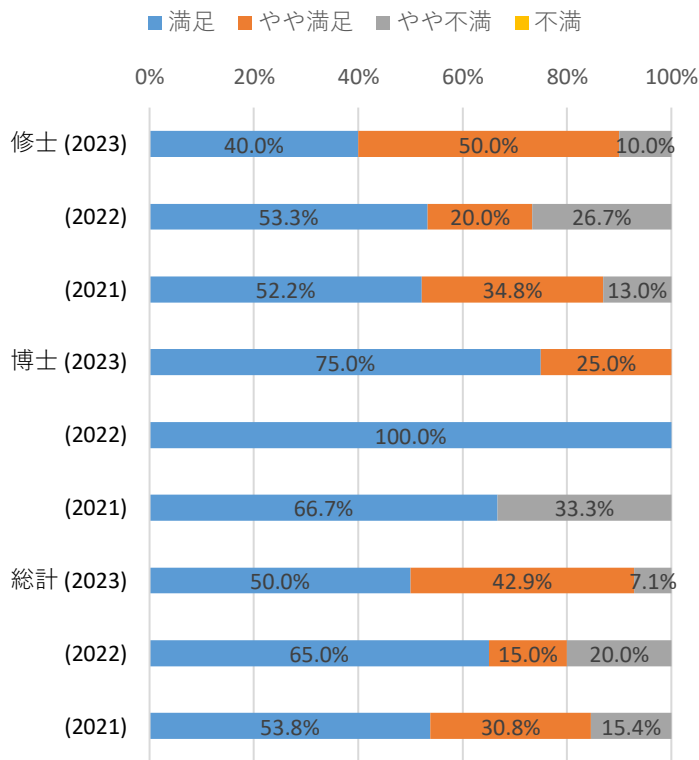
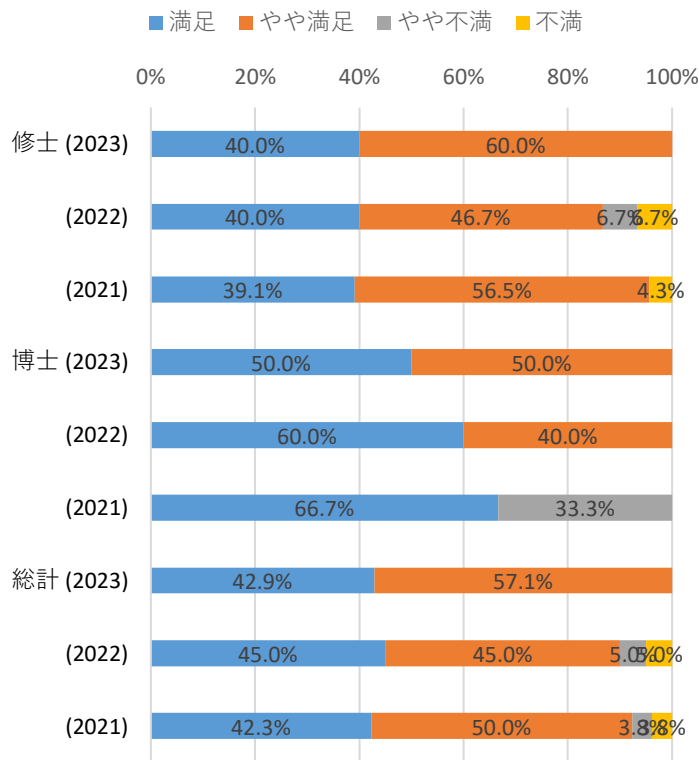
1. 調査の目的
2. 調査対象者
3. 調査時期
4. 回収状況
- （カッコ内は昨年度）

課 程	回答数	対象者数	回収率
修士1年	5	12	41.7% (75.0)
修士2年以上	5	12	41.7% (30.0)
計	10	24	41.7% (46.9)

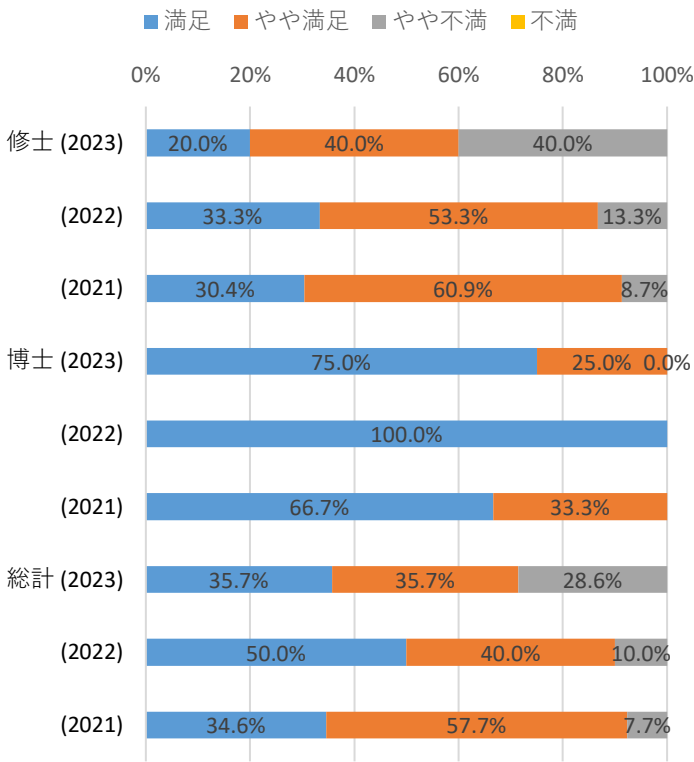
博士1年	0	1	0.0% (33.3)
博士2年	3	3	100.0% (50.0)
博士3年以上	1	2	50.0% (75.0)
計	4	6	66.7% (55.6)

I. 研究指導と研究環境

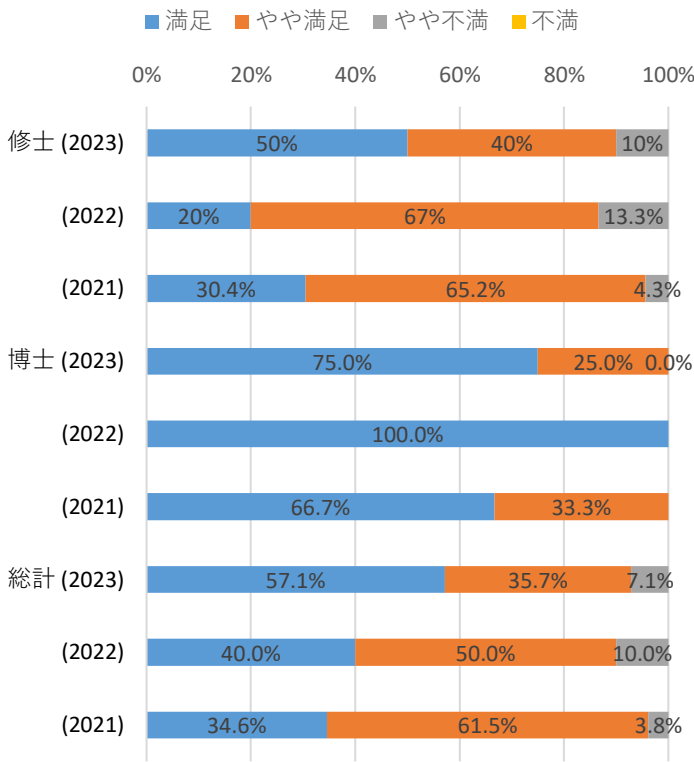
1. カリキュラムの内容
2. 研究の進め方や論文作成についての指導



3. 専門的な資格取得に向けての指導

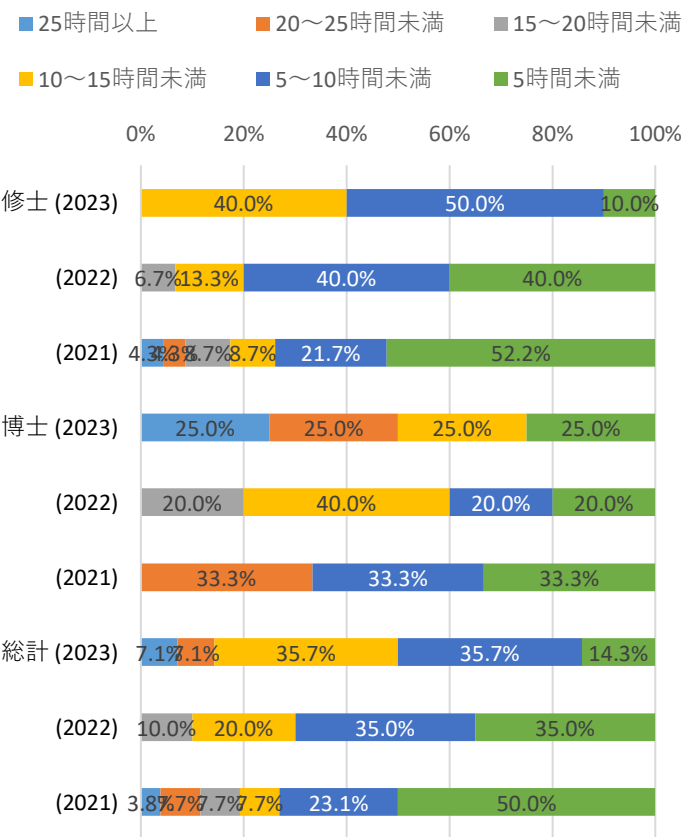


4. 成績評価（研究 or 論文評価）

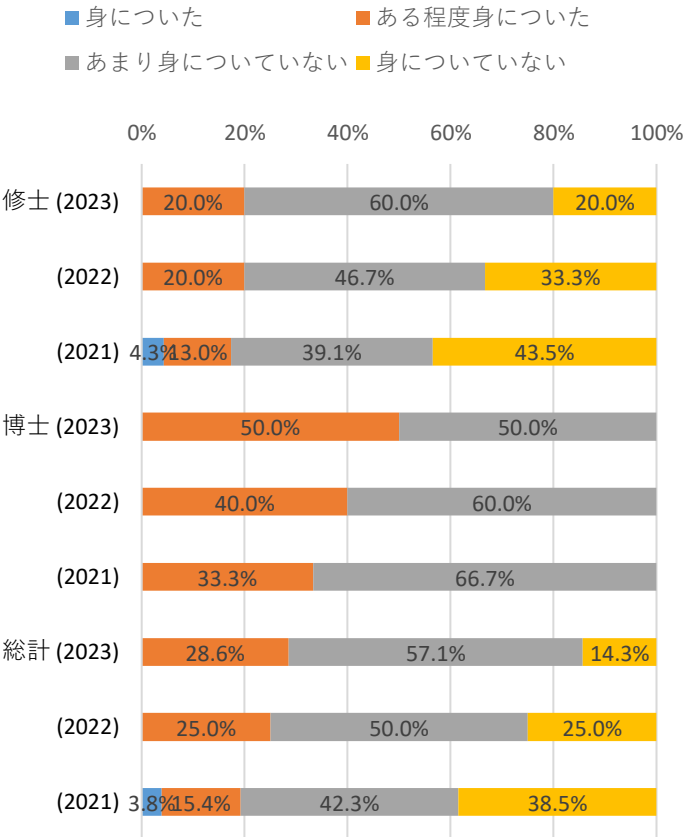


II. 学修行動・成果について

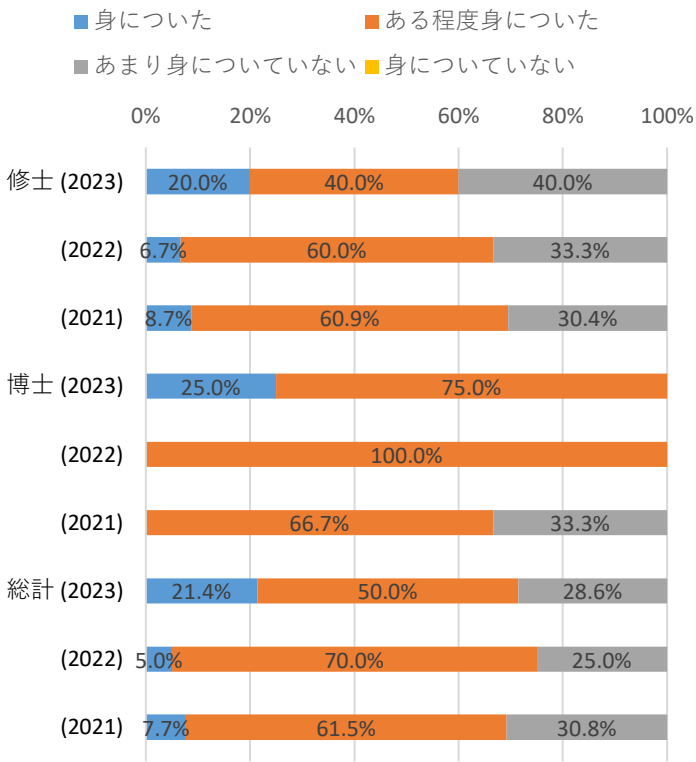
5. 授業やゼミ以外での1週間の研究時間



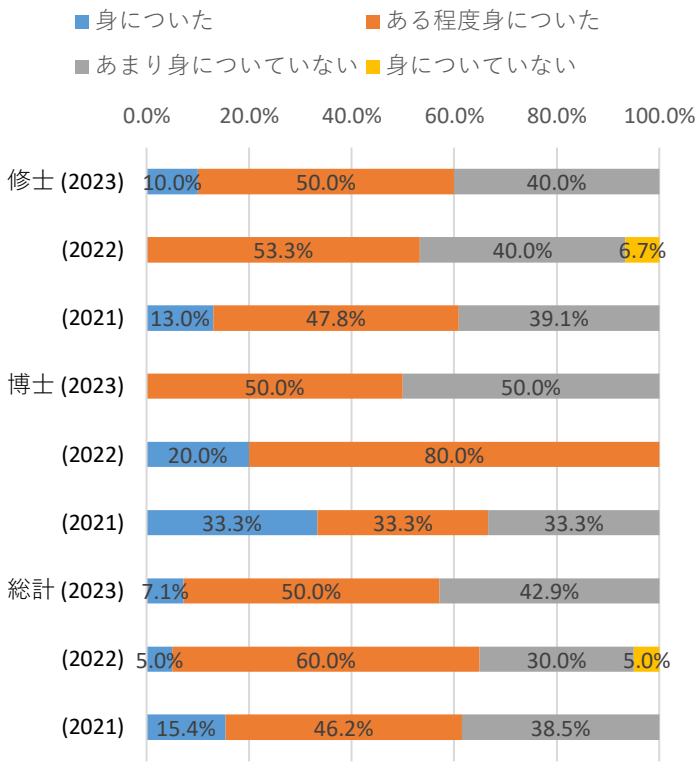
6. 研究を進めていく上で必要な外国語能力



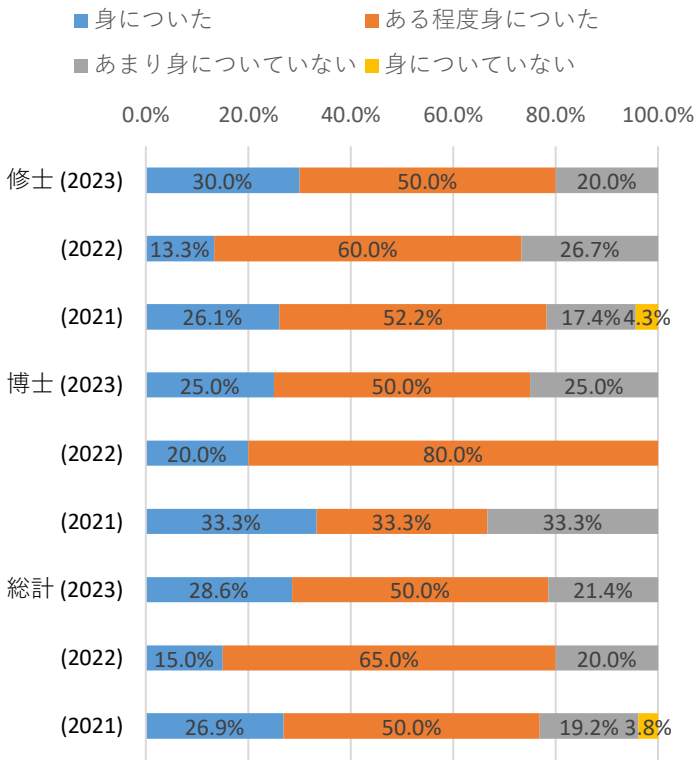
7. 研究を進めていく上で必要なICTリテラシー



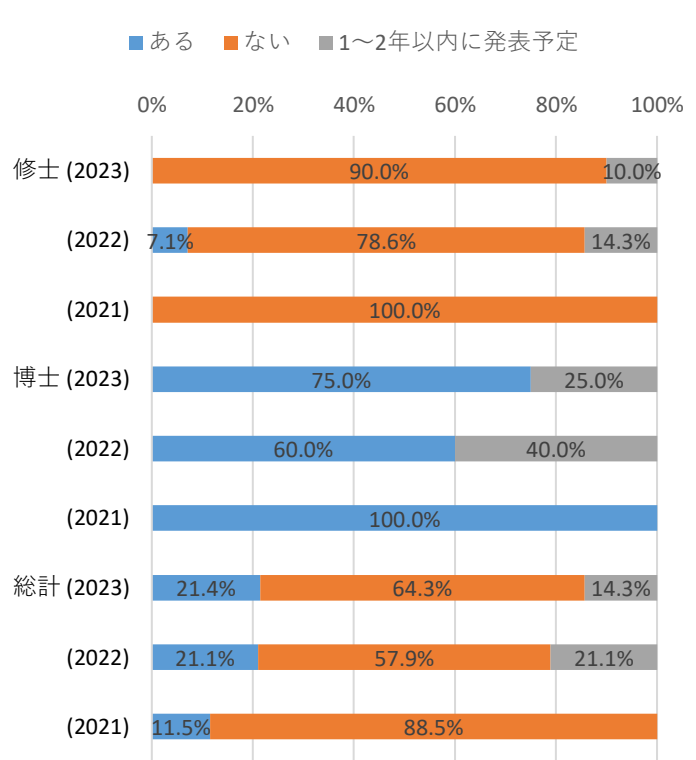
8. 研究を進めていく上で必要なプレゼンテーション



9. 専門分野の資格を取得するために必要な知識と技能



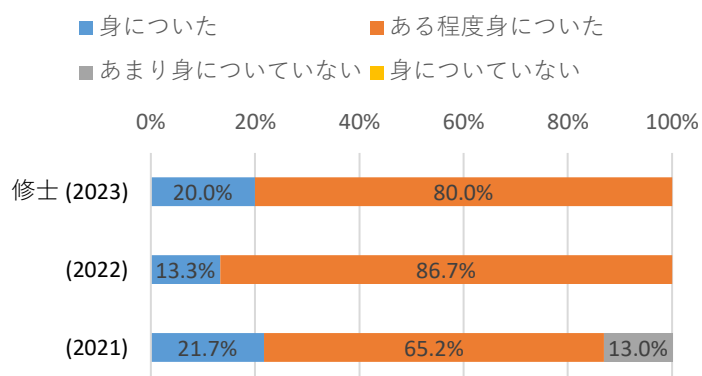
10. 研究成果の研究紀要や学会誌、学会などでの発表



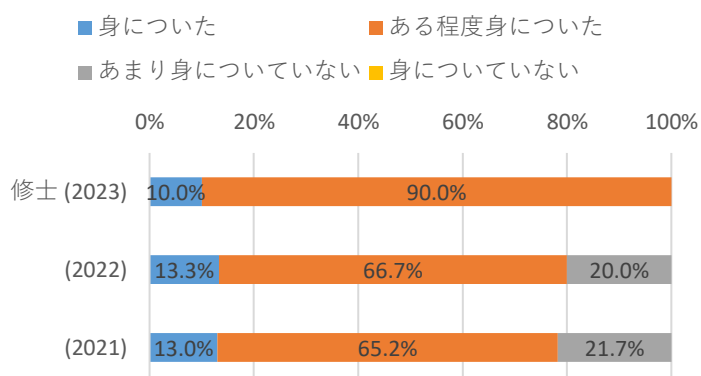
III. DPの達成度について（学修成果）

【修士課程】

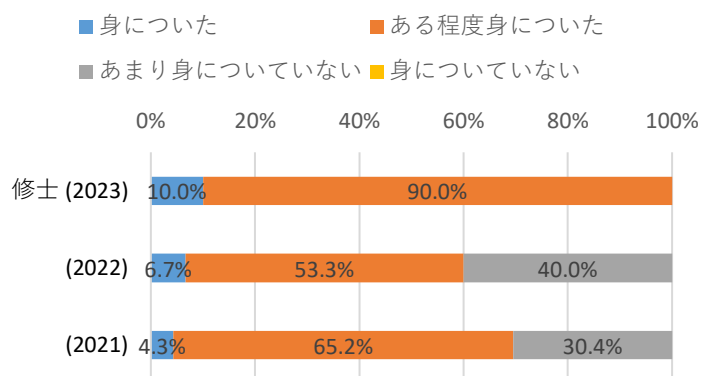
11. 「心理支援の専門家」に求められる社会性と倫理観および法規の知識



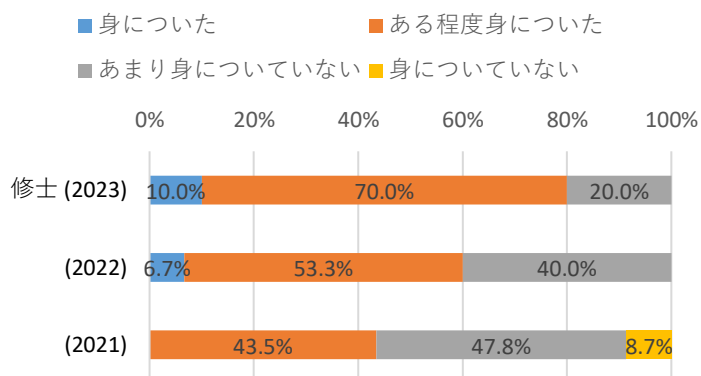
12. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析することについての知識と技能



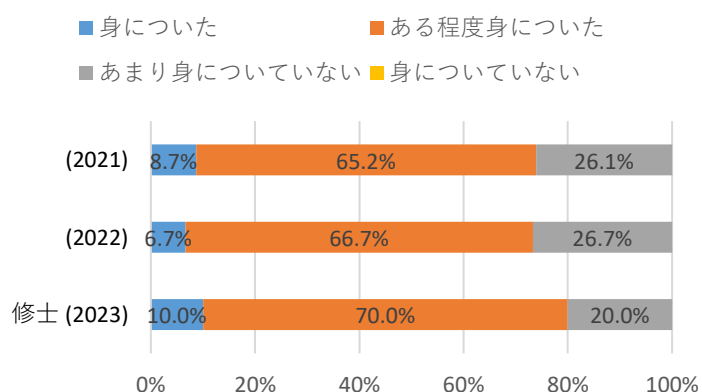
13. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能



14. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能

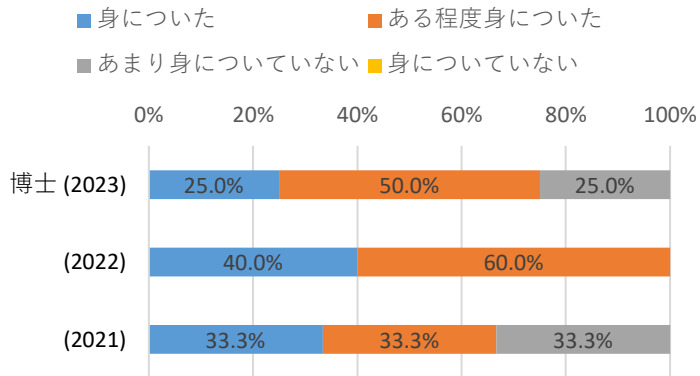


15. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うことについての知識と技能

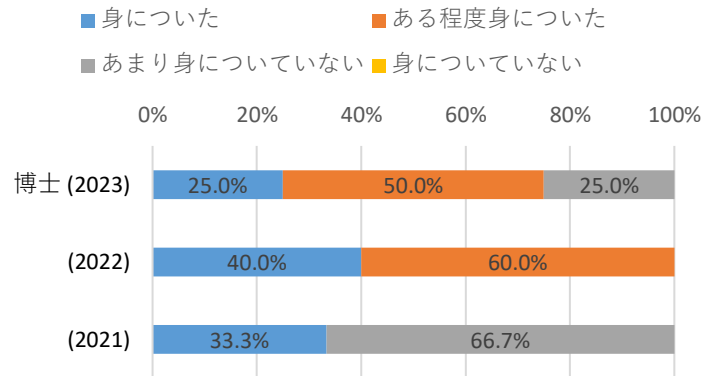


【博士後期課程】

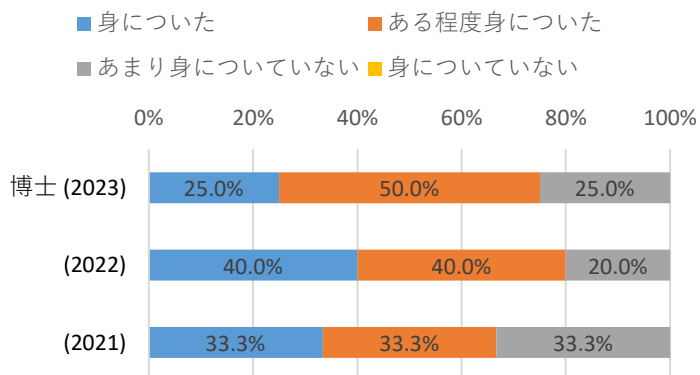
16. 「高度な心理支援の専門家」に求められる深い教養と社会性や倫理観および法規の知識



17. 臨床心理学に関する社会的に意義ある研究を遂行し理論構築を行い公表するための専門性



18. 臨床心理学に関する教育を行うことについての知識と技能



2023年度 東京成徳大学学修調査（大学院）の調査結果の主要Facts

1. 主要Facts ※ 回答数が少ないため（修士課程10件、博士課程4件）、以下の考察は「参考情報」にとどまる。

- ①「1. 研究指導と研究環境」の満足度については、両課程とも全体的に高評価となっている
- ・ただし、2023年度の修士課程では「専門的な資格取得に向けての指導」の満足度がやや低下している。
- ②「2. 学修行動・成果について」
- ・両課程とも「専門分野の資格を取得するために必要な知識と技能」は一定の水準を維持している
 - ・両課程とも「研究時間・外国語能力・ICTリテラシー・プレゼンテーション」が相対的に低位である。特に「研究時間・外国語能力」は、改善も見られるが低位である。
 - ・博士後期課程では多くが「論文」「学会発表」を経験済みか発表予定である
- ③「3. DPの達成度について」
- ・修士課程では、全項目とともに経年比較で最高値となっている。
 - ・博士後期課程では、2021年度との比較では全体としてやや高位であるが、2022年度との比較ではすべての項目で低位となっている。

2. 研究指導と研究環境

	修士			博士			総計		
	2023年度	2022年度	2021年度	2023年度	2022	2021	2023年度	2022	2021
カリキュラムの内容	3.4	3.2	3.3	3.5	3.6	3.3	3.4	3.3	3.3
研究の進め方や論文作成についての指導	3.3	3.3	3.4	3.8	4.0	3.3	3.4	3.5	3.4
専門的な資格取得に向けての指導	2.8	3.2	3.2	3.8	4.0	3.7	3.1	3.4	3.3
成績評価（研究 or 論文評価）	3.4	3.1	3.3	3.8	4.0	3.7	3.5	3.3	3.3

(参考) 12.9 12.7 13.2 14.9 15.6 14.0 13.4 13.5 13.3

(注)数値は、満足=4、ある程度満足=3、やや不満=2、不満=1、とする加重平均値。

3. 学修行動・成果について

	修士			博士			総計		
	2023	2022	2021	2023	2022	2021	2023	2022	2021
授業やゼミ以外での1週間の研究時間	1.8	1.5	1.6	2.7	2.0	2.0	2.0	1.6	1.7
研究を進めていく上で必要な外国語能力	2.0	1.9	1.8	2.5	2.4	2.3	2.1	2.0	1.8
研究を進めていく上で必要なICTリテラシー	2.8	2.7	2.8	3.3	3.0	2.7	2.9	2.8	2.8
研究を進めていく上で必要なプレゼンテーション能力	2.7	2.5	2.7	3.5	3.2	3.0	2.9	2.7	2.8
専門分野の資格を取得するために必要な知識と技能	3.1	2.9	3.0	3.0	3.2	3.0	3.1	3.0	3.0
研究成果の研究紀要や学会誌、学会などでの発表	1.2	1.4	1.0	3.6	3.4	4.0	1.9	1.9	1.3
(参考)	13.6	12.9	12.9	18.6	17.2	17.0	14.9	14.0	13.4

(注)数値は、身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1、とする 加重平均値。「研究時間」と「発表」は4点満点に換算。

4. DPの達成度について（学修成果）

【修士課程】

	2023	2022	2021
①「心理支援の専門家」に求められる社会性と倫理観および法規の知識	3.2	3.1	3.1
②心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析することについての知識と技能	3.1	2.9	2.9
③心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能	3.1	2.7	2.7
④心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能	2.9	2.7	3.3
⑤心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うことについての知識と技能	2.9	2.8	2.8
(参考)	15.2	14.2	14.9

【博士後期課程】

	2023	2022	2021
①「高度な心理支援の専門家」に求められる深い教養と社会性や倫理観および法規の知識	3.0	3.4	3.0
② 臨床心理学に関する社会的に意義ある研究を遂行し理論構築を行い公表するための専門性	3.0	3.4	2.7
③ 臨床心理学に関する教育を行うことについての知識と技能	3.0	3.2	3.0
(参考)	9.0	10.0	8.7

(注)数値は、身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1、とする加重平均値。

2024年2月21日

東京成徳大学教育研究改善委員会

2023年度 東京成徳大学学修調査（大学院）の自由記述

質問：「アンケートに答えてみて、自分の学修行動・意識と学修成果について気づいたこと、考えたことを自由に記述してください。」

修士課程	ゼミ以外での研究時間が少ないことに気がつきました。自身で研究の時間を持てるように工夫してみたいと思います。
	必要に応じて学習する機会を持つことが多かった。
博士後期課程	研究を進めるにあたって、海外の文献をスムーズに読めるような力を磨いていきたいです。 また、中間発表や学会発表を通して、自分の研究成果を適切に説明することの難しさも感じていますので、プレゼンテーション能力も磨いていきたいです。
	指導には満足しているが、図書館やデータベースなど大学院の設備に不足があり、外部機関を利用せざるを得ない。
	今回のアンケートへの回答は、全体的に低評価になってしまいました。申し訳ございません。私事の事情のため、研究活動が滞ったことによる自己責任です。 次年度は、頑張りたいと思っています。